

平成二十五年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 前期日程

国 語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～18ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【一】後の問いに答えなさい。

問一 ———— 線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、————— 線部⑤～⑧のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 油断は禁物だ。
- ② 画家になることを志す。
- ③ この神社の由来を教えてください。
- ④ 過ちは直ちに改めなさい。
- ⑤ 水分がジヨウハツする。
- ⑥ 世界新記録をジュリツする。
- ⑦ 自宅から駅までオウフクする。
- ⑧ インガ関係を明らかにする。

問二 例にならって、逆さまにしても熟語になるように、①～④の□にあてはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

例 国□と□国 ———— 答え 外

- ① 社□と□社
- ② 論□と□論
- ③ 段□と□段
- ④ 解□と□解

問三 次の①～⑤の——線部の敬語について、使い方が正しければ○、間違えていれば×を書きなさい。また、間違えているものは例にならって改めなさい。

例 先生のお話をお聞きになる。

×
うかがう

- ① 先生のお手紙をご覧になって、私はとてもうれしく思いました。
- ② 私の祖父が申し上げたことを、先生はお聞きになりましたか。
- ③ つまらないものですが、あなたのお母さんにあげて下さい。
- ④ 先生がいらっしやられたので、私は父を呼びに行きました。
- ⑤ 我が社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 ここ数年、私には鯨と象を撮影する機会がとても多かつた。特に意識的に選んだつもりはないのに、結果としてそうなってきた。鯨や象と深く付き合っている人たちがみな、人間としてとても面白かつたのだ。

人種も職業もみなそれぞれ異なっているのに、彼らには独特の、共通した雰囲気がある。

彼らは、象や鯨を、自分の知的好奇心の対象とは考えなくなってきた。鯨や象から、何かとてつもなく大切なものを学びとろうとしている。そして、鯨や象に対して、畏敬の念さえ抱いているように見える。

人間が、どうして野生の動物に対して畏敬の念まで抱くようになってしまったのだろうか。この、人間に対する興味から、私も鯨や象に興味を抱くようになった。そして、自然の中での鯨や象との出会いを重ね、彼らのことを知れば知るほど、私もまた鯨や象に畏敬の念を抱くようになった。

今では、鯨と象は、私たち人類にある重大な示唆を与えるために、あの大きなからだで（現在の地球環境では、からだが大きければ大きいほど生きるのが難しい）数千万年もの間この地球に生き続けてきてくれたのでは、とさえ思っている。

※ 大脳皮質の大きさとその複雑さからみて、鯨と象と人は高度な精神的能力を持つ、と考えられる。しかも、この三種は、誕生からの成長過程がほぼ同じで、あらゆる動物の中で最も遅い。一歳は一歳、二歳は二歳、十五、六歳でほぼ一人前になり、寿命も六、七十歳から長寿の者で百歳まで生きる。本能だけで生きるのではなく、年長者から生きるためのさまざまな知恵を学ぶために、これだけゆっくりと成長するのだろうか。

2 これらの点に注目すると、鯨と象と人は確かに似ている。しかし、誰の目にも明らかのように、人と他の二種とは何かが決定的に違っている。

現代人の中で鯨や象が、「
I
」と素直に信じられる人は、まずほとんどいないだろう。それは、我々が、言葉や文字を生み出し、道具や機械をつくり、交通や通信手段を進歩させ、今やこの地球の全生命の未来を左右できるほどに科学技術を進歩させた、この能力を「知性」と思い込んでいるからだ。

この点だけからみれば、自らは何も生産せず、自然が与えてくれるものだけを食べて生き、後は何もしないでいるようにみえる鯨や象が、自分たちと対等の「知性」を持った存在であるとはとても思えないのは当然のことだ。

A、六〇年代に入つて、さまざまな動機から鯨や象たちと深い付き合いをするようになった人たちの中から、この「常識」に対する疑問が生まれ始めた。

鯨や象は、人の「知性」とはまったく別種の「知性」を持っているのではないか？

B、人の「知性」は、この地球

に存在する大きな知性の、偏った一面の現れであり、もう一方の面に、鯨や象の「知性」が存在するのではないか？ という疑問である。

この疑問は、最初、水族館に捕らえられた[※]オルカ（シャチ）やイルカに芸を教えようとする調教師や医者、心理学者、その手伝いをした音楽家、鯨の脳に興味を持つ大脳生理学者たちの³実体験から生まれた。

彼らが異口同音にいう言葉がある。それは、オルカやイルカは決して、ただ餌がほしいがために本能的に芸をしているのではない、ということである。

彼らは捕らわれの身となった自分の状況を、はっきり認識している、という。その状況を自ら受け入れると決意した時、初めて、自分とコミュニケーションしようとしている人間、さしあたっては調教師を喜ばせるために、
C 自分自身もその状

況の下で、精一杯生きることを楽しむために「芸」と呼ばれることを始めるのだ。水族館でオルカが見せてくれる「芸」のほとんどは、実は人間がオルカに強制的に教え込んだものではない。オルカのほうが、人間が求めていることを正確に理解し、自分の持っている超高度な能力を、か弱い人間（調教師）のレベルに合わせて制御し、調整をしながら使っているからこそ可能になる

「芸」なのだ。

たとえば、体長七メートルもある巨大なオルカが、狭いプールでちっぽけな人間を背ビレにつかまらせたまま猛スピードで泳ぎ、プールの端にくると、手綱の合図もなにもないのに自ら細心の注意を払って人間が落ちないようにスピードを落としてそのまま人間をプールサイドに立たせてやる。また、水中から、直立姿勢の人間を自分の鼻先に立たせたまま上昇し、その人間を空中に放り出しながら、その人間が決してプールサイドのコンクリートの上に投げ出されず、再び水中の安全な場所に落下するよう、スピード・高さ・方向などを三次元レベルで調整する。こんなことがはたして、ムチと飴による人間の強制だけでできるだろうか。そこには、人間の強制ではなく、明らかに、オルカ自身の意志と選択が働いている。狭いプールに閉じ込められ、本来持っている超高度な能力の何万分の一も使えない苛酷な状況に置かれながらも、自分が「友」として受け入れることを決意した人間を喜ばせ、そして自分も楽しむ⁴オルカの「心」があるからこそできることなのだ。

また、こんな話もある。

人間が彼らに何かを教えようとする、彼らの理解能力は驚くべき速さだそうだけれども、同時に、彼らもまた人間に何かを教えようとする、というのだ。フロリダの若い学者が、一頭の雌イルカに名前をつけ、それを発音させようと試みた。イルカと人間では声帯が大きく異なるので、なかなかうまくいかなかった。それでも、もう少しうまくいった時には、その学者は頭を上下にウンウンと振った。二人（一人と一頭か）の間では、その仕草が互いに了解した、という合図だった。何度も繰り返しているうちに、学者は、そのイルカが自分の名とは別の⁵ある音節を同時に繰り返し発音するのに気がついた。しかしそれが何を意味するのかはわからなかった。そしてある時、はたと気づいた。「彼女は私にイルカ語の名前をつけ、それを私に発音させようとしているのではないか」、そう思った彼は、必死でその発音を試みた。自分でももう少しうまくいったかな、と思った時、なんとその雌イルカは、ウンウンと頭を振り、とても嬉しそうにプール中をはしやぎまわったというのだ。

鯨が高度な「知性」を持っていることは、たぶん間違いない事実だ。

しかし、その「知性」は、科学技術を進歩させてきた人間の「知性」とは大きく違うものだ。人間の「知性」は、自分にとっての外界、大きく言えば自然を意のままにコントロールし、科学技術を駆使して自分の支配下に置こうとする、いわば「攻撃性」の「知性」だ。この「攻撃性」の「知性」をあまりにも進歩させてきた結果として、人間は大量殺戮や環境破壊を起し、地球全体の生命を危機に陥れている。

これに対して鯨や象の持つ「知性」は、いわば「受容性」の「知性」、とも呼べるものだ。彼らは、自然をコントロールしようなどとは一切思わず、その代わり、この自然の持つ無限に多様で複雑な営みを、できるだけ繊細に理解し、それに適応して生きるために、その高度な「知性」を使っている。

だからこそ彼らは、我々人類よりはるか以前から、あの大きなからだでこの地球に生きながらえてきたのだ。同じ地球に生まれながら、⁶ 片面だけの「知性」を異常に進歩させてしまった我々人類は、今、⁷ もう一方の「知性」の持ち主である鯨や象たちからさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の地球の知性に進化する必要がある、と私は思っている。

(龍村 仁 『地球のささやき』より)

注 ※ 示唆：それとなく気づかせること。

※ 大脳皮質：大脳の表面に広がる層で、思考や推理に使う。

※ オルカ(シャチ)やイルカ：どちらも鯨の仲間。

問一 ——線部1「ここ数年、私には鯨と象を撮影する機会がとても多かった」とありますが、「鯨と象を撮影する機会がとても多」くなった理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 鯨や象はからだが大きすぎて近いうちに絶滅してしまいそうだから。

イ 自然の中で鯨や象などの野生動物と出会う機会が重なったから。

ウ 鯨や象と深く付き合っている人間がとても魅力的だったから。

エ 鯨や象に対する知的好奇心は人類の進化の謎を解くために必要だから。

オ 鯨や象は人間に対して畏敬の念を持っているように見えるから。

問二 ——線部2「これらの点」とは、どのような点ですか。本文中から二点、それぞれ本文中からぬき出して答えなさい。
ただし、解答用紙の「……点」に続く形でぬき出すこと。

問三 「I」に当てはまる言葉を、ここより後の文章の中から探し、二十字程度でぬき出して答えなさい。

問四

A

C

に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことは出来ません。

ア ところで

イ そして

ウ しかし

エ だから

オ つまり

問五

——線部3「実体験」にあたる具体例が示されている段落を二つ探して、段落の始めの五字をそれぞれ書きなさい。

問六

I 〜〜〜〜線部の四字熟語「異口同音」の読み方を書きなさい。

II また、その使い方として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなで話し合ったが、異口同音の意見がでて、結局まとまらなかった。

イ その司会者は、どんなことでも異口同音に話すので信用ができない。

ウ 合唱コンクールで、クラスみんなは心を合わせて異口同音に歌った。

エ 生徒会長のスピーチを聞いて、みんなは異口同音に賛成を唱えた。

問七 —— 線部4「オルカの「心」」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 捕らわれの身になっていることに対するあきらめ。

イ オルカ自身の意志と選択によってなされた決意。

ウ 超高度な能力を最大限に生かそうとする意識。

エ 自分たちと比べ格段に小さい人間に対する優越感^{えつ}。

オ 人間によって強制的に植えつけられた忠誠心。

問八 —— 線部5「ある音節」とありますが、これは何を表していましたか。二十字以内で説明しなさい。

問九 —— 線部6「片面だけの「知性」」、7「もう一方の「知性」」とはどのような知性ですか。それぞれ四十字以内でまとめなさい。

【三】 次の文章は、重松清『正』の一節です。主人公の「少年」のクラスでは、学期毎に男女二人ずつを学級委員として選出することになっています。また、一度委員をした人の再選はありません。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

I

学級委員なんてやりたくないのに、学級委員に選ばれた。できれば当選したあとで、「俺、絶対やだから」と断ってみたい。一学期の選挙では二票しか入らなかった。二学期の選挙では六票に増えた。クラスの「上」の四人が抜けた今度の選挙では……。「上」って発想、やだな、なんか。

人気者になりたい——のとは、違う。勝ち負けというのとも、微妙に違う。

ただ、どきどきする。むしろくしやする。胸の奥で小さな泡が湧いて、はじけて、また湧いて、はじけて……。俺だけなのかなあ、とつぶやいた。

こんなこと考えてるのって、クラスで俺だけ、なんだろうか。みんなはもっと余裕で、全然楽勝で、へっちゃらで、選挙のことなんてなにも気にしていない、のだろうか。

こんなことを考えてる俺って、実は死ぬほどヤな性格の、ヤな奴、なんだろうか。

四年生には思わなかったことだ。たぶん。三年生のところだと、選挙の前にこんな気分になってしまうなんて、想像すらできなかった、と思う。二年生や一年生のこととは、もう思いだせない。

II

始業式の前の教室は、ひさしぶりに顔を合わせた友だち同士のおしゃべりでにぎわっていた。誰も選挙の話はしない。忘れている？ どうでもいいから話さない？ それとも、みんな緊張しているから、わざとその話題に触れないようにしているのだろうか。

少年はお年玉やゲームの話題に付き合っておしゃべりしながら、注意深くみんなの様子をうかがった。特に、五番めと六番めの

座を争いそうな梶間くと榎本くんを。

二人がちよつとでも学級委員をやりたがっていたら、すぐに「カジとエノちゃんが三学期の学級委員だよ、決まりだよ、なーっ？」とみんなに言うつもりだった。そのときの口調や表情の練習も、頭の中で何度も繰り返していたのに、二人がなにを考えていたのかは最後までわからずじまいだった。

体育館での始業式が終わり、教室に戻ると、担任の間宮先生が「今日の『終わりの会』は三学期の学級委員の選挙にします」と言った。

どきどきしたままで、むしゃくしゃしたままの胸が、息ができないほど締めつけられた。列ごとに配られた投票用紙を後ろ向きに回すとき、³指がかすかに震えた。

投票するのは男女二人ずつ。

「好き嫌いや人気投票じゃなくて、クラスにとって誰が委員になってくれたら一番いいのか、よく考えて投票しなきゃだめよ」ふだんはスウェット姿がほとんどの先生が、今日は始業式だからスカートとジャケット姿——それだけでなにか、いつもは優しい先生が急に厳しくなったように見える。

少年は投票用紙に向かった。女子の委員は最初から遠藤さんと矢口さんに決めていたのに、名前を書くときにシャープペンシルの芯が折れてしまった。

男子は——最初に梶間くと榎本くんの名前を並べて書いて、梶間くんを消して、紺野くんの名前に書き換えた。

深呼吸をした。榎本くんの名前も消した。顔を伏せ、両手で壁をつくって、小さく切ったわら半紙の投票用紙を隠した。シャープペンシルを素早く動かして、⁴二人めの名前を書き終えたら、すぐに紙を折り畳んだ。

自分の書いた字は見なかった。読まなくてもわかる、いままでに数えきれないほど書いてきて、これからも数えきれないほど書いていくはずの名前だった。

開票が始まった。

三枚めの投票用紙で、初めて少年の名前が告げられた。「正」の字の上の横棒が黒板に記された。「なんでだよお、誰が入れたんだよ、なに考えてんだよお」とうつつとうしそうに声をあげたら、先生に「開票中は静かにしなさい」と注意された。

また少年の名前が出てきた。「一」に縦棒が加わって、ほどなく三票めも入った。

でも、その時点で榎本くんは「正」の字を完成させていたし、もっと速いペースで票を伸ばしていた梶間くんは、二つめの「正」も残り二票でできあがる。「カジとエノちゃんでもいいじゃん。もう決まったようなもんじゃん、コールド勝ちじゃん」

椅子の脚を浮かせて言うと、先生に「私語をしないの」と名指しで叱られた。

開票は後半に入った。順調に票を伸ばした梶間くんの当選は確実だったが、一人めの委員は榎本くんと少年が抜きつ抜かれつだった。

投票用紙が残りわずかになると、榎本くんもそわそわしはじめ、「俺、やりたくないって言ってんじゃん」「だめだって、俺、学校やめるから」と無駄口が増えてきた。うるさい。耳障りだ。少年は小さく舌打ちした。さっきの俺もアレと同じだった？ も

う一度⁵舌打ちをして、あと一票で完成する三つめの「正」から目をそらしたとき、紺野くんの名前が読み上げられた。

初めての得票だった。「紺野」の名前の下に、「正」の横棒が一本。教室のどこかから、くすくす笑う声が聞こえた。やだあ、と女子の誰かの声も。

同じ投票用紙に書かれたもう一人の名前も、読み上げられた。

少年の、三つめの「正」ができあがった。

少年は当選した。十五票。榎本くんとは一票差だった。「ちえつ、一瞬期待して損したじゃんよお。カッコ悪ーう！」と⁶榎本

くんは甲高い声で言つて、両手をおどけてひらひらさせた。頬が赤い。教室中を見回しているのに、誰とも目を合わせていない。少年の頬も赤かった。誰とも目を合わせず、黒板に並ぶ「正」をじつと、にらむように見つめていた。エノちゃんもおんなじだったんだ、と思った。あいつも俺とおんなじで、胸がどきどきして、むしゃくしゃしていたのかもしれない。ほんとうはカジだつて、他の奴らだつて、おんなじだったのかもしれない。

IV

「じゃあ、委員になつたひとは前に出て、一言ずつ挨拶してください」と先生が言った。

女子の二人と梶間くんが遅れて、少年はのろのろと席を立った。当選して断るなんて、やっぱりできない。そんなの最初からできるわけなかったんだよ、と自分をなじつた。

うつむいて歩きだしたら、紺野くんの顔がちらりと目に入った。結局一票だけで終わった紺野くんは、こつちを見て、やったね、というふうに笑っていた。三つの「正」の中には、紺野くんが入れてくれた一票も含まれているのだろう、きつと。

少年は梶間くんたちと並んで黒板の前に立ち、みんなと向き合った。榎本くんを見られない。もしかしたら字の書き癖で……と思うと、怖くて、先生のほうも向けない。選挙が終わつた瞬間には荷物を下ろしたように軽くなった気分が、いまはまた重たい。さつきよりずっと重くて、苦しくて、悔しくて、悲しい。

梶間くんは「三学期は短いけど、一所懸命がんばるから、みんなも協力してください」と胸を張って、大きな声で挨拶をした。少年は横を向いて、「ぼくも同じです」とだけ言った。

「それだけ？」

先生の声に、思わずひるんで振り向いた。先生は窓を背にして立っていた。外の陽射しがまぶしくて顔がよく見えない。

「当選したひとは『正しい』がたくさんあったんだから、挨拶も、きちんと、正しい挨拶にしなさい」

8 少年は逃げるように正面を向いた。

榎本くんはもうふだんの調子に戻って、隣の女子の浅井さんと小声でおしゃべりしていた。紺野くんもいる。挨拶のあとの拍手に備えて、相撲の土俵入りみたいに手を開いて、少年と目が合うと、すげえーっ、カッコいい、と口だけ動かしてまた笑った。「ぼくも……一所懸命がんばります」

ちゃんと言えた。

「よろしくお願いします」と頭を下げると、先生が「はい、新しい学級委員に拍手ーっ」と言った。みんなの拍手に包まれると、急に胸が熱くなって、涙が出そうになった。

「じゃあ、みんなはこれで下校です、学級委員の初仕事、黒板の字を消してくださいー」

教室は椅子を引く音やランドセルの蓋を閉める音やおしゃべりの声で騒がしくなった。

黒板消しを手にした少年は、⁹ まっさきに自分の名前と三つの「正」を消した。次に、紺野くんの名前を消し、「一」を消した。榎本くんの名前の前に立って、あと一本あれば完成していた三つめの「正」の、ほんとうなら最後の横棒が入っていたところをしばらく見つめてから、名前と「正」をまとめてひと拭きで消した。

問一 —— 線部1「クラスの『上』の四人が抜けた今度の選挙では……」とありますが、「……」にはどのような言葉が続くと考えられますか。自分で考えて書きなさい。

問二 —— 線部2「すら」という言葉を使って短文を作りなさい。ただし、主語・述語がはっきり分かるように書くこと。

問三 —— 線部3 「指がかすかに震えた」とありますが、このときの「少年」の気持ちを表す二字の熟語を、本文中から探して答えなさい。

問四 —— 線部4 「二人めの名前」とありますが、誰の名前ですか。答えなさい。

問五 本文中に次の文を入れるとしたら、どこが適当ですか。Ⅱ段落の中から探して、直前の五字をぬき出しなさい。

だってあいついい奴だもん、トロいけど優しいし、三学期になってもゼロ票ってかわいそうだし。

問六 ——線部5「舌打ちをして」とありますが、このときの「少年」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 榎本くんのそわそわした態度が鼻につき、いらだたしく思う気持ち。
- イ 自分の行動の不愉快さに気づき、自分に対して腹立たしく思う気持ち。
- ウ 自分と得票数を競っている榎本くんに負けそうになり、あせる気持ち。
- エ 自分だって学級委員になりたくないということアピールしようという気持ち。
- オ 榎本くんもうるさいのに、先生が自分ばかり注意するので、不満に思う気持ち。

問七 ——線部6「榎本くんは甲高い声で言って、両手をおどけてひらひらさせた」とありますが、このときの「榎本くん」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 委員に選ばれなかったので、ふざけた態度をとることによって人気者になろうとしている。
- イ 自分に票を入れた誰かのせいで、こんな恥ずかしい思いをしなけらばならないと思い、腹を立てている。
- ウ 自分が動揺していることをクラスメートに気づかれないよう、ごまかそうとしている。
- エ たった一票の差なのだから、自分は完全に負けたわけではないと開き直っている。
- オ クラスメートが自分を冷たい目で見るので、何とか雰囲気を変えようとあせっている。

問八 —— 線部7「少年はのろのろと席を立った」とありますが、このときの「少年」の気持ちの説明として最も適当なものを

次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 学級委員を務めるのはいやなので、ふてくされた態度をとることで、その気持ちを分かりやすく伝えようと思っている。
- イ 自分みたいな「ヤな奴」には学級委員は務まらないので、選挙の前から考えていた通り、辞退しようと思っている。
- ウ 梶間くんと得票数の差を考えると自分が情けなく、もっと余裕を持って当選したかったのにと、不機嫌になっている。
- エ 学級委員に選ばれたものの、榎本くんが悪いという気持ちもあり、複雑な思いから、素直に喜べないでいる。
- オ 自分が学級委員に選ばれるとは思っていなかったので、ゆっくり歩いて挨拶の内容を考える時間を稼ごうとしている。

問九 ~~~~~ 線部 a 「自分をなじった」、b 「ひるんで」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a 「自分をなじった」
- ア 自分で自分を責めた
 - イ 自分の愚かさを後悔した
 - ウ 自分で自分に失望した
 - エ 自分に言い訳をした

- b 「ひるんで」
- ア そわそわとして
 - イ もんもんとして
 - ウ わなわなとなって
 - エ たじたじとなって

問十 —— 線部 8 「少年は逃げるように正面を向いた」、9 「まっさきに自分の名前と三つの『正』を消した」とありますが、これらの部分から共通して読み取ることのできる「少年」の気持ちを説明しなさい。

国 語

解答用紙

受験番号

【一】		問一		⑤	①
		⑥	②	す	③
		⑦	③		
		⑧	④	ちに	

【二】	問三			⑤	③	①					
							④	②			
	問二			①	②	③					

【三】	問一									
	問二									
	問三									
	問四									
			A							
			B							
			C							
			問六							
			I							
			II							

問二		点 点	
問三			

【四】	問五										
	問六										
	問七										
	問八										
			問九								
			6								
			7								

【三】	問一		

【四】	問二										
			問四								
			問五								
			問六								
			問七								
			問八								
			問九								
			a								
			b								

【五】	問六										
			問七								
			問八								
			問九								
			問十								
			問十一								

国 語

解答用紙

【一】

① きんもつ	② こころざす	③ ゆらい	④ ただちに
⑤ 蒸発	⑥ 樹立	⑦ 往復	⑧ 因果

問二 ① 会	② 理	③ 階	④ 読
--------	-----	-----	-----

問三 ① ×	拝見して	② ○
③ ×		④ ×
⑤ ○	さしあげてください	いらっしゃった

【二】

問一 ウ

問二 高度な精神的能力を持つ	点
成長過程がほぼ同じで、あらゆる動物の中で最も遅い	点

問三 自分たちと対等の	”	知性	”	を	持	つ	た	存	在	で	あ	る
-------------	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問四 A ウ	B オ	C イ
--------	-----	-----

問五 たとえば、	・	人	間	が	彼	ら
問六 I	いくどうおん	II	エ			

問七 イ	問八 イ	ル	カ	が	学	者	に	付	け	た	イ	ル	カ	語	の	名	前
------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問九 7	自	然	配	下	自	然
生	自	然	に	を	意	
き	の	營	置	こ	の	ま
よ	み	を	う	と	ま	
う	を	織	と	に	コ	
と	細	に	る	一	ン	
す	理	解	攻	ト	ロ	
る	し	、	性	一	ル	
一	の	”	そ	れ	の	”
受	知	性	に	”	自	
容	”	適	”	知	性	分
性	。 ”	応	し	”	の	支
一	の	し	て	。 ”	支	

【三】(三十二点)

問一 自分が学級委員に選ばれるかもしれない。

問二 例 梅が和歌山の特産品であることは、小さな子どもですら知っている。

問三 緊張	問四 少年(自分)	問五 き	換	え	た	。
-------	-----------	------	---	---	---	---

問六 イ	問七 ウ	問八 エ	問九 a	ア	b	エ
------	------	------	------	---	---	---

問十 自分で自分に投票するという方法を使って当選したことに、後ろめたさを感じている。
--

平成二十五年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 中期日程

国 語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～18ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の――線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、――線部⑤～⑧のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 綿密な計画を立てる。
- ② 古代の国々の興亡。
- ③ ダイヤモンドは貴重な石だ。
- ④ 板が反り返ってしまった。
- ⑤ 今日ではてんこうが悪い。
- ⑥ 話を聞くときのたいどに気をつける。
- ⑦ 家のるすばんをする。
- ⑧ 作戦をねる。

問二 次の漢字には読み方がそれぞれ三つずつあります。その三つをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 上手
- ② 下手

問三 次の①～⑤の慣用句について、()内の意味になるように、に当てはまる生き物を表す漢字一字を答えなさい。

- ① 猿えんの仲 (非常に仲が悪い)
- ② が合う (とても気が合う)
- ③ の息 (今にも死にそうな様子)
- ④ 耳じをとる (思い通りに動かす)
- ⑤ 飛ぶを落とす勢い (勢いがさかんであること)

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①「虫けら」という言葉がある。「国語大辞典」には「虫類をいやしめて呼ぶ称」とある。なぜこのような語が生まれたのか。虫は小さくて脳がないおバカさんという意味からか。気持ち悪く不快な動物だからだろうか。それだけではなく、小さな虫は寿命が短くはかない命の持ち主という意味もその言葉には含まれているのかもしれない。英語には「Bug」という単語があり、これも「虫けら」に似たニュアンスがある。そうであるならば、小さな虫をいやがり、バカにしようとする感情は、国境を越えて多くの人間に共通に生じるものなのかもしれない。

生物にとって最も大事なことは、自分の遺伝子を残すことである。永遠の命を持ってないので、子供を作り、遺伝子を子々孫々に伝える。そうだとすると、絶滅することもなく、今も生き残っている虫けらは、人間と同様にそれまでの環境に適応し、賢く生き抜いてきた生物だといえるだろう。成虫の命がわずか数時間というカゲロウも、三億年もの長きにわたって変わらない姿で命をつないできているのだ。

人間は高い知能を持ち、文明を築いてきた。一方、虫けらにはそれがなく、ただ遺伝子の命令に従って条件反射的な行動を取っている。この点をとってみて人間より著しく劣っていると考える人がいるかもしれない。しかし、②この生き方の違いはそれぞれの生物がさらされてきた、それぞれの環境に適応してきた結果なのである。

虫けらは寿命が短いので、環境が短期間で大きく変化するところで暮らしてきたのだろう。そのような生物は一般に、環境が好転したときには短期間に爆発的に増えることができる。そして、幸運にも良い環境に巡り会ったものが再び子供を産んで大きな個体群をつくるのである。

これとは対照的に、人は比較的安定した環境下で暮らしてきたのだろう。A、子どもを少数産み、大事に育てる道を選んだ。外敵や厳しい環境に対しては群れで力を合わせて立ち向かってきた。そしてそれが言語を発達させ、文化を生むことにつな

がつていったのだろう。

③ 虫けらは人間と比べるとはるかに短命である。多くの昆虫の寿命は二〜三か月から一年程度である。セミのように幼年期間を土の中で過ごすものには、数年という比較的長い期間生きているものもある。ただし、このような昆虫でも成虫期間は短い。

B セミの場合で二〜三週間である。エビやカニと同じ甲殻類の仲間、水の中で暮らすミジンコの寿命は昆虫よりも短い。実験室で観察していると、生まれて数日で成熟して卵を持ち、その後、ほぼ一日おきに産卵を繰り返す。そして一か月ほどで寿命が尽きる。ただし、自然界ではその寿命をまっとうする個体はほとんどいない。多くの個体が長くても一〜二週間のうちに捕食者に食べられて命を落としているのである。

虫けらの一生は短い、その間に子ども時代を経て成熟し、恋をして子を産む。それによって命をつないでいる。考えてみれば、人間の一生と同じことをしているのである。いや、より短期間で虫けらは人と同じことをしているのだ。そのことを思えば、むしろ人間より充実した生を送っているということができるだろう。

小さな動物は大きな動物よりも活動的である。呼吸の頻度が高く一定時間の心拍数が多い。そのため、小さな動物は寿命が短いにもかかわらず、一生の間の心拍数は少なくない。本川達雄氏は『ゾウの時間ネズミの時間』で一生の間に打つ心臓の鼓動は体の大きさにかかわらず、哺乳類ではほぼ二十億回になるとのべている。本川氏も指摘しているが、④ 生物は、それぞれ異なった時計をもっているのである。われわれ人間は、地球の自転周期を二十四時間とする時計を使い、それを用いて様々なことを考えているが、それが⑤ 他の生物に対する我々の勘違いを生む原因になっているのではないだろうか。人は虫けらよりもはるかに長寿だが、生物の世界で最も長寿の生き物ではない。休眠期をもつ動物を除いて、最も長生きする動物の一つがゾウガメである。寿命は約二百年といわれている。一八三五年にガラパゴス島を訪れたダーウインに会ったガラパゴスゾウガメが、近年まで生きていたというから驚く。

カメは昔から長寿を表す生き物として人間に扱われてきた。それは長寿を願う人間のあこがれでもあったのだろう。

C

そのカメも、結局のところ、一生に打つ心臓の鼓動の回数は人間と同じなのである。また、一生にすること、すなわち、成長し恋をして子孫を残すこと、も同じなのである。

カメは動きがとても緩慢だ。いつものつそりのつそり歩いている。きつと頭の回転速度も遅いのではないだろうか。百年近くの寿命を持つ人間の二倍以上の長期間生きているカメは、物事を考えるスピードが、人間の半分程度なのかもしれない。

そのように考えると、カメとは対照的に寿命が短い虫けらは、D人よりも機敏で、外から入ってくる情報を人間よりもずっと速く処理しているのかもしれない。枝の先に止まっているトンボを捕まえるため、そつと手を伸ばしてトンボの羽に近づけて、あとは指ではさむだけのところまでできていても、最後に指をぱつと動かすと、それにトンボが反応して指の間から逃げてしまう。その素早さにはXを巻く。

昆虫やミジンコなどの変温動物は活性が温度に依存して大きく変化する。すなわち、生存可能温度の範囲内では、温度が高くなれば走る速度や泳ぐ速度が速くなる。これは成長速度も同じである。そして、
I
≡

たとえばカブトミジンコの個体を異なった水温で飼育してみた。すると、水温二十度では生まれて九日目に最初の子供を産むが、水温が十度に下がると、それが四十八日にまでも延びてしまう。寿命も同様で二十度で飼育していると四十日〜五十日ほど生きるが、十度で飼育すれば百八十日を超える。E、水温が十度低下すると、ミジンコの寿命は約四倍も長くなるのである。こ

れは、小型ネズミ（二〜三年）とネコ（十〜十二年）の寿命の違いに匹敵する。もし、短命なものほど下等な生物だとすると、ミジンコは同じ種類の個体でも、低温環境にいる方が高等な生物となる。一方で、成長速度やエサを摂食する速度は温度の低下に伴って大きく下がることになる。これに対して、温度が高いところにいるミジンコは敏捷に動くので賢い生物とみなされることになるだろう。このように同じ種類の個体でも、条件によって評価が変わってしまうのである。

ここで考えてみた。ミジンコがお互いにことばを交わして情報交換する生物だとして、彼らが水温二十度と十度のビーカーの中でそれぞれ飼育されていてビーカーのガラス越しに会話したらどうだろう。それぞれのミジンコはしゃべる速度が異なるため、コ

コミュニケーションができなくなるに違いはない。また受け取ったことばを脳の中で処理する速度が異なるため、コミュニケーションができなくなるに違いはない。すると、お互いがお互いを別種の生き物とみなすのではないだろうか。

このように考えると、単に体の大きさが違うこと、寿命が異なること、また動きの機敏さなどの表面的な違いに基づいて生物を単純に評価してはいけないということになる。生物の生態を決める大きな要因は生物を取り囲む環境である。生物の特性を考えるときには、環境との関係性、つまり環境とどのように関わっているかということを考えなければならぬ。そしてその結果としてどれだけ多くの子孫を残すことができたかということを見ていくことが大切であろう。

(花里 孝幸『自然はそんなにヤワじゃない』より)

問一 本文中の A E に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア だから イ しかし ウ むしろ エ つまり オ たとえば

問二——線部①『虫けら』という言葉がある」とありますが、筆者はこの「虫けら」という語に対してどのように考えてい

ますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「虫けら」という呼び名が人々の間に広がるのはうれしいことだ。
- イ 「虫けら」と呼んで気味の悪い動物をいやしむのは当然だ。
- ウ 「虫けら」と小さい生き物を見下して呼ぶことは間違っている。
- エ 「虫けら」と頭で考えただけで気持ち悪く不快になってくる。
- オ 「虫けら」と呼んで小さい虫をかわいがることはよいことだ。

問三——線部②「この生き方の違い」とありますが、次に挙げた「生き方」はそれぞれ「人間」「虫けら」のどちらに当てはまりますか。「人間」であればア、「虫けら」であればイと答えなさい。

- 1 高い知能を持ち、言語や文化を生み出し、巨大な文明を築いてきた。
- 2 常に遺伝子の命令に従い、反射的な行動がほとんどである。
- 3 短期間で状況が大きく変化する不安定な環境で暮らしてきた。
- 4 外敵や厳しい環境に対しては集団で力を合わせて立ち向かってきた。
- 5 環境との相性が良ければ、爆発的に数を増やすことが可能である。
- 6 子供の数は少なく、それを社会の中で大切に育てることを選んだ。

問四 —— 線部③「虫けらは人間と比べるとはるかに短命である」とありますが、筆者は人間に比べて「虫けら」が短命であることについてどのように評価していますか。本文の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問五 —— 線部④「生物は、それぞれ異なった時計をもっている」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 動物たちは、それぞれ違った時間感覚を持っており、それに従って生きていくということ。
- イ 動物たちは、それぞれの体のサイズに合った大きさの心臓をもっているということ。
- ウ 動物たちは、それぞれ持っている体のサイズが大きいほど、寿命が短くなるということ。
- エ 動物たちは、それぞれ持っている寿命の長さに応じて、一生のうちの心拍数が異なるということ。
- オ 動物たちは、それぞれ持っている体のサイズは違うが、人間と同じリズムで生きていくということ。

問六 ——— 線部⑤ 「他の生物に対する我々の勘違い」とありますが、この文中で書かれている、カメに対する「我々の勘違い」

とはどういうものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 動きがのろいカメを頭の回転速度も遅いと考えバカにすること。
- イ カメは長生きするから素晴らしいと考えてあこがれること。
- ウ 動きの速い虫けらとカメを比べ、カメを虫けら以下だと決めつけること。
- エ 一生で人と同じ数の鼓動をするカメのことをすごいと思うこと。
- オ ゆっくりだが、密度の濃い生をおくるカメのことをうらやましがること。

問七 本文中の X に体の一部を表す漢字一字を入れなさい。

問八 本文中の ㄨ

I

ㄨに当てはまる文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 成長速度が速くなると寿命もそれだけ長くのびていくことになる。
- イ 成長速度が変化しても寿命それ自体は一定で変わらないのである。
- ウ 成長速度が速い動物が動作も素早くになるとは言えないのである。
- エ 成長速度が速くなると早く成熟して早く死を迎えることになる。
- オ 成長速度が変化しても寿命に影響をおよぼすとは限らないのである。

問九 筆者は生物の特性を考えるとときにはどのようなことが大切だと考えていますか。本文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

どんなことが起こっても、これ以上悪い状況にはなりえない。そう思えるほど、夏代の高三の夏休みは最低最悪のものだった。
——みんな今ごろちゃんと勉強してんだろうなあ。

暑さにうだって、板の間にべたりと横になって窓の外の目に沁みるような青い空を見つめる度に、夏代はそんなことをぼんやり考えた。そう考えると、腹立たしいのと悔しいのと情けないのがごちゃごちゃになって、夏代はどうしようもない気分はたに陥おとるのだった。

夏休みがはじまる前、一学期最後の模試で、史上最悪の結果を出した。第一志望はおろか、すべり止めのつもりで考えていた短大さえ危ないと言われた。

それで夏代は夏休みに入ると、綾とゼミに通いはじめた。しかし、辛うじて通い続けてはいたが、授業にはまるで身が入らず、空き時間になると綾とふたりで駅前のハンバーガー屋に行き、アイステイーをすすりながらぼんやりと年号クイズなどをしあつた。もう自分には、良いことなんて何も起おこらないような気がした。

そして悪いことというのは、いちど起こると続けざまにやってくるものなのである。夏休みも半ばを過ぎたある日のゼミの帰り道、混み合った電車に揺られていた夏代は、今まで心地良く脳味噌そに侵入いってきていたヒューイ・ルイスの歌声が、だんだん薄れていくのに気がついた。

ウォークマンの電池はその日の朝に替えたばかりで、バッテリー切れということは考えられない。それでも慌ててランプを調べると、バッテリー残量を示す赤いランプは煌々と光っている。夏代はウォークマンを揺すってみた。するとブチリというイヤな音が鼓膜こまくに伝わり、^①ヒューイはまるつきり黙たってしまった。あとはもう、振かつても叩たたいてもウンともスンとも言わない。

五月の誕生日に買ってもらったばかりのウォークマンだったが、使いはじめたその日からどうも調子が悪かった。

「……ばかやろお」

思わず低く呟くと、隣に立っていたサラリーマン風の若い男が、驚いた顔で夏代を見た。

夏代は家に帰るとすぐにウォークマンを買った店に電話した。故障したと言うと、本店まで持っていただければ無料で修理いたしますと言われた。

当然だ、そんなことは。——そう思いながら「どこにあんですか、その本店っていうのは」とAで訊くと「は、武蔵小杉です」とBで答えた。武蔵小杉！川むこうじゃないよ。そう言いたいのを我慢して、夏代は本店の場所を訊いた。

翌日、電気屋にウォークマンを預けてから、夏代はゼミに向かうために途中下車してそこからバスに乗った。ゼミを終えて、いつものように綾と喫茶店に入り、さあ行こうかというときになって、夏代は「ひッ」とCを出した。かばんの中に財布がなかった。

喫茶店の分と帰りの電車賃だけ綾に借りて夏代は帰途についたが、電車の中では失くなった財布のことを忙しく考えていた。現金は大して入っていなかったけれど、銀行と郵便局のキャッシュカード、ごていねいなことに原付の免許まで入れていた。途中下車してバスに乗るときまではあったわけだから、落としたとするとバスの中か、それともバス停か……。

母親にこっぴどく叱られ、取りあえず銀行と郵便局に電話してキャッシュカードの取引停止手続きをした。次の日、夏代はゼミを休み、途中下車した駅の駅前にある交番へ出向いた。

交番には若いお巡りさんと年とったお巡りさんがひとりずついて、年とった方が夏代に椅子をすすめた。

「落としたのはどこ？」

「あのバス停のどこ……だと思っただけですけど」

「どんな財布？」

「えーと茶色い革のヤツで、わりとおつきくて、一方がボタンになって……」

そのところで、今まで奥の扉のむこうにいた若い方が、扉から半分顔を見せて大声で言った。

「あー、届いているよ、それ」

若いお巡りさんは机の引出しから、こともなげに夏代の財布を取り出した。

「これでしよう」

「そうです！」

夏代は飛びあがりたいのを我慢して、財布を引き取るためのいろいろな書類に住所や名前を書きこんだ。中のものは何ひとつ失くなっていなかった。

「良かったねえ、無事戻ってきて」

年とった方がニコニコしながら言った。なんだかここ数か月のうちで、久しぶりに他人に優しくされたような気がして、夏代は不覚にも涙ぐみそうになりながら「ハイ」と答えた。

帰り際、夏代はお巡りさんたちから一枚の紙きれを渡された。財布を拾ってくれた人の住所や電話番号が書いてあるもので、電話してお礼を言っておきなさいと言われた。

「藤原俊造 七十二歳」

紙きれの一行目に読みにくい行書体でそう書かれていて、住所は世田谷区玉堤となっている。ここから歩いて、さほどの距離ではなかった。

夏代は久しぶりに、ほんとうに久しぶりに②明るい気持ちになつていたから、電話をするよりも直接行ってお礼を言おうと考えた。

駅前から銀杏の並木道をずっと歩いていくと、途中にある花屋の店先に明るいオレンジ色の花が咲いていた。何の花かと思つて近寄ってみると、それは花ではなく少し早いほおずきの実だった。夏代はほおずきを買った。愛想のいい店のおばさんが、「少し

おまけしときますね」と言いながら一本余分に持たせてくれた。

夏代はほおずきを花束のように抱えながら並木道を歩き、坂道を下り、昇り、また下った。

川っぶちの町に着いて、商店街で訊ねながら行くと、その家は案外簡単に見つかった。

ひっそりとした、木造の小さな家の門柱に「藤原」という表札が見えた。人気のない玄関の引き戸の前で、なんとなく入りかねていると、背後で足音が聞こえた。

犬を連れて老人が立っていた。柴犬に似た雑種らしい犬は、はッはッと息を吐きながら立ち止まった主人を見あげている。

「あの……、藤原俊造さんですか」

「そうですか」

老人は不思議そうに、^③ほおずきの花束を抱えた奇妙な女の子を見つめた。

「あの、あたし、お財布拾ってもらった者なんですけども……」

「ああ」

老人は、^c合点がいったように頷いた。

「あの、ほんとうにありがとうございます」

そう言って頭を下げたとたん、唐突に冷たい涙が滝のように夏代の頬を流れ落ちた。びっくりしたのと恥ずかしいのが一緒になった。夏代の身体の内側を駆けまわった。

「夏代は「お礼です」と叫ぶように言ってほおずきを老人に渡し、驚いた顔の老人と犬に「さよならっ」と言った。

駅へ続く坂道を、夏代は駆け昇った。心臓がばくんと音を立てた。終わりがけた夏の風が夏代の頬をすべっていった。

^④そう思ってしまったことでも、優しさとか善意とかいうものは確かに人間を救うことがあるんだな。わけのわからなくなつた頭の中で、夏代はそんなことを考えていた。

何か月ぶりかで走った。何か月ぶりかで身体が汗のぶんだけ軽くなり、そのぶん心も軽くなったような気がした。

(驚沢 萌 『ほおずきの花束』より)

問一 〓線部 a 「身が入らず」、b 「こともなげに」、c 「合点がいった」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「身が入らず」

- ア 好きになれず
- イ 理解ができません
- ウ 一生懸命になれず
- エ 素直に取り組めず

b 「こともなげに」

- ア ふてぶてしく面倒くさそうな様子で
- イ 遠慮のないちよつとふざけた様子で
- ウ 相手を見下したような冷たい様子で
- エ 何事もないかのように平気な様子で

c 「合点がいく」

- ア 獲得する
- イ 納得する
- ウ 説得する
- エ 体得する

問二 〰〰〰線部「何も起こらないような気がした」について

I いくつの文節に分けられますか。漢数字で答えなさい。

II いくつの単語に分けられますか。漢数字で答えなさい。

問三 〰線部①「ヒューイはまるつきり黙ってしまった」とありますが、それは何がどうなったということですか。具体的に説明しなさい。

問四 本文中の A } C に当てはまる言葉として、最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア 声にならない声

イ 笑い声

ウ 恐縮きこくした声

エ 不機嫌けげんな声

問五 〰線部②「明るい気持ちになっていた」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って、六十字以内で答えなさい。

問六 ——— 線部③ 「ほおずきの花束」について説明した次の文章の「 」に当てはまる言葉を、本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

明るいオレンジ色の実をつけたほおずきは、「本当に久しぶりに明るい気持ち」になった夏代の心情を表しているだけではなく、他人の「 」をも目に見える形で表現している。

問七 ——— 線部④ 「そう思ったことだけでなく」とありますが、それはだれがどのようにしたことを指していますか。簡潔に答えなさい。

問八 この文章の特徴について、最も適当なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 「武蔵小杉」「世田谷区玉堤」など具体的な地名を挙げ、その土地について詳しい説明を加えることで、その場所を知らない読者にも、想像しやすくなっている。

イ 「ほおずきを花束のように抱えながら」「涙が滝のように」など比喩を多用することで、物語に童話風の気分を取り入れ、読者が非現実の世界に引き込まれるように工夫されている。

ウ 「イヤな音」「茶色い革のヤツ」などのカタカナや、「勉強してんだらうなあ」「どこにあんですか」などの口語表現を多用することで、若い読者に親しみやすさを与えている。

エ 「窓の外の目に沁みるような青い空」「花屋の店先に明るいオレンジ色の花が咲いていた」などの感情をできるだけおさえた風景の描写を多用することで、夏代の周りの人たちの冷たさを表現している。

オ 「サラリーマン風の若い男が、驚いた顔で夏代を見た」「若いお巡りさんは机の引出から、こともなげに夏代の財布を取り出した」など、様々な登場人物たちの目に映った夏代を丁寧に描くことで、夏代の心情を読者にわかりやすく伝えている。

【一】

問一	問一
⑤ 天候	① めんみつ
⑥ 態度	② こうぼう
⑦ 留守番	③ きちょう
⑧ 練る	④ そり

問二

② へた	① じょうず
しもて	かみて
したて	うわて

問三

① 犬
② 馬
③ 虫
④ 牛
⑤ 鳥

【二】

問一	問二
A ア	ウ
B オ	
C イ	
D ウ	
E エ	

問三

1 ア
2 イ
3 イ
4 ア
5 イ
6 ア

問四

間	短
よ	期
り	間
も	で
充	人
実	間
し	と
た	同
生	じ
を	こ
送	と
っ	を
て	し
い	て
る	い
。	る
	の
	で
	、
	人

問五

ア
イ

問七

舌
エ

問九

孫	環
を	境
残	と
す	の
こ	関
と	係
が	性
で	を
き	考
た	え
か	、
を	そ
見	の
て	結
い	果
く	ど
こ	れ
と	だ
。	け
	子

【三】

問一	問二
a ウ	I 四
b エ	II 九
c イ	

問三 ウォークマンがこわれて、音が出なくなってしまったということ。

問四

A エ
B ウ
C ア

問五

他	あ	財
人	た	布
に	た	が
優	か	無
し	い	事
く	言	に
さ	葉	も
れ	を	ど
た	か	っ
よ	け	て
う	て	き
な	も	て
気	ら	、
が	い	お
し	、	巡
た	久	り
か	し	さ
ら	ぶ	ん
。	り	に
	に	も

問六

優
し
さ
と
か
善
意
と
か
い
う
も
の

問七 老人が夏代の財布を交番に届けたこと。

問八

ウ

平成二十五年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 後期日程

作文

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に記入しなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返ししておきなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、内容をまとめ、「真の友」についてあなたの感じたことや考えたことを書きなさい。(六百字以内)

「真の友」とはどういう友なのか。ブツダは四種類の「友人もどき」を挙げて、「こういう人は見せかけの友だから注意するように」と言っています。

それは(一)利益のために近づいてきて、一方的に求めるだけの人、(二)口先だけの人、(三)相手が喜ぶことだけを言う人、(四)財産を減らす人、の四種類です。ここではその三番目、「相手が喜ぶことだけを言う人」についてお話しします。

この種の友人から離れた方が良いということは、裏を返しますと、「むしろ、自分の問題点を指摘してくれる人こそ伴走者にするように」ととらえられるでしょう。

たとえば、日ごろ、口うるさく注意してくれる目上の人は嫌な人だと感じるかもしれませんが、とても友だちにはなれないかもしれません。しかしながら、その「嫌だな」と思ったことを、あくまでよりましに向上させていくための材料として取り入れるなら、その目上の人こそ「友」と申せましょう。

その反対に、いつも一見良いことばかり言ってくる人は、結果的には自分を墮落させるので、あまり一緒にいない方が良いでしょう。

ある日私が、カフェでおしるこを賞味していた時、数人の女性が話をしているのが聞こえたのですけれども、その会話というのが、このようなものでした。

一人の方が自分の子どもの成績について自慢話をしたら、他の方は「そうなんだ」「お勉強できて良いわね」と答え、他の方が自分の子どもの話をしたら、他の方は「そうなんだ」「そうよね」と答える。お互いにそれを繰り返しています。おそらく「そうなんだ」と興味深そうに聞いているフリをしつつ、この数時間後には彼女たちは何ひとつ

しておぼえていないでしょう。

さらにそのうち、その場にいない方のことを「気がきかない人よね」と皆で悪く言い始めました。おそらくは、もしも悪く言われている方がその場にいたら、まわりの方はその方の話にも「そうなんだよ」「そうよねよ」としか言わないのではないのでしょうか。

その場にいる人の言うことは一切否定せず、同意しもしない。その場にいない人のことは皆で悪く言う。それは、からっぽな人間関係を表すよくある例。

相手が自分の言うことをすべて肯定してくれ、賛同してくれると、自己満足できて気持ち良いかもしれません。それで一応の友人関係を保っているつもりなのです。しかし、真の友はそうではありません。

なぜなら、「良いことでも、悪いことでも同意する」というのは、内容がどうであれ同意するということ。結局、相手のことなんて、きちんと考えていないのです。

悪いことでも同意するというのは、いちいち反対するのは面倒くさいので、深く考えずに「いいですね」と流しているのでしょう。

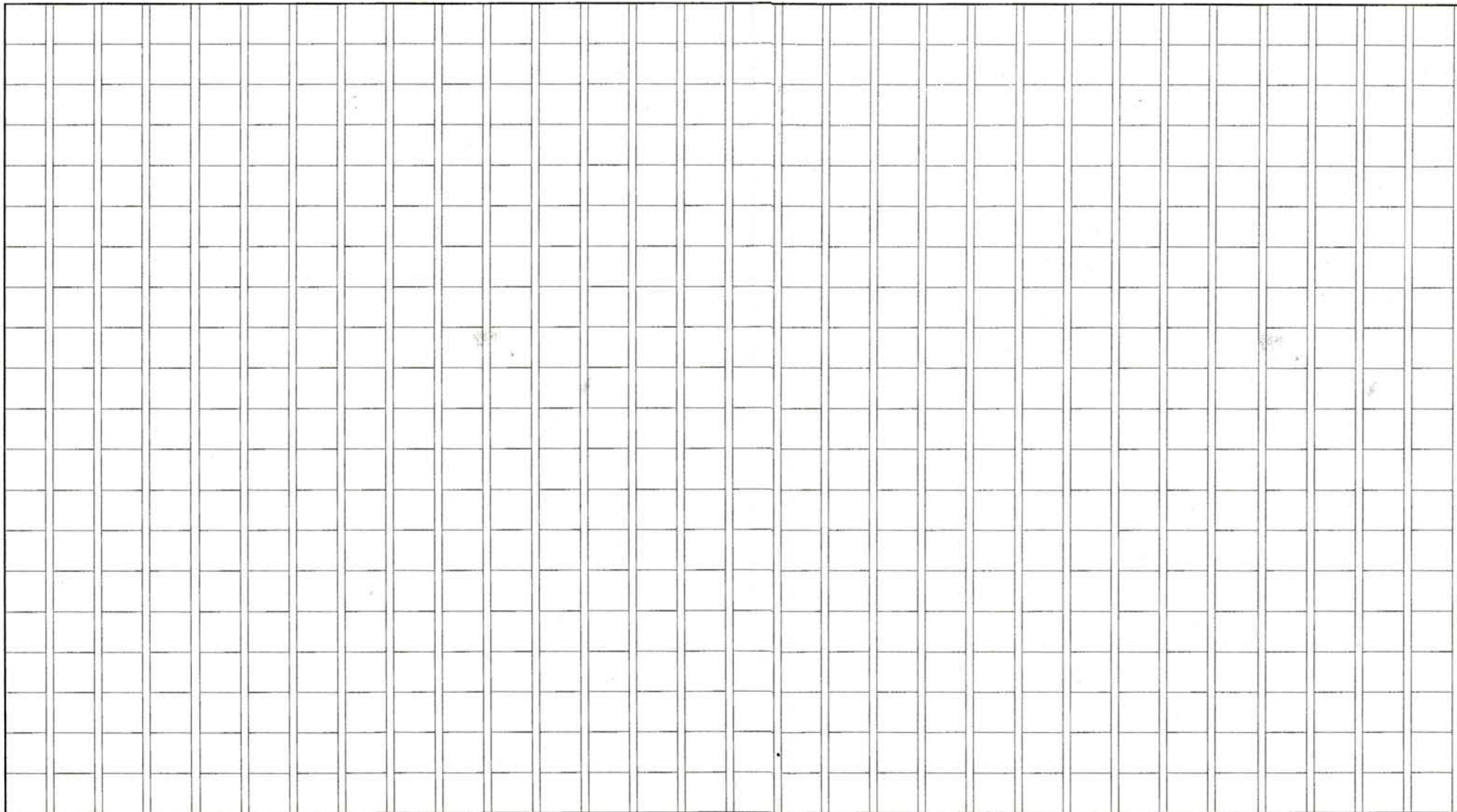
相手のことをどうでも良いと思っていたら、流せるのでしよう。

しかしながら、それは自分と関係ないと思っているから「いい」のであって、何らかの理由で自分と関わりが出てくると、簡単に「いいんじゃない」とは言えなくなってくるはずですよ。

平成二十五年 度 和歌山信愛女子短期大学附属中学校 後期日程 入学試験
作 文 下 書 き 用 紙

受験番号

*一行目から書き始めなさい。題、名前を書く必要はありません。



受験番号

Empty rectangular box for entering the examination number.